日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

B&G

B&G 財団　海洋教育事業 自然体験活動の効果に関する調査研究

海と出会い、自分と出会う

～海洋体験活動が育むもの～

Contents

B&G 体験クルーズ B&G 海洋体験セミナー　5つのねらい…… 2
海洋自然体験で私たちが目指すもの…… 4
海洋文化の創造…… 5
自立心や知的好奇心が育ちます…… 6

● 体験クルーズ・小笠原

概要、参加者の声と応援メッセージ…… 8
アンケート結果……10
考察……11

● 海洋体験セミナー・沖縄
親子ふれあい体験セミナー・沖縄

概要、参加者の声と応援メッセージ……12
海洋体験セミナー：アンケート結果……14
：考察……17
親子ふれあい体験セミナー
：アンケート結果……18
全体評価……19

ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

豊かな自然・
子どもたちを、た

● 体験クルーズ in 小笠原（5泊6日）

1日目	結団式、海洋観察、避難訓練 ウェルカムパーティ
2日目	**■船内活動** レクリエーション、デッキランチ 海洋観察（鳥島）、小笠原の自然学習
3･4日目	**■寄港地活動** 自然体験 ホエールウォッチング ウミガメ学習 植物観察 トレッキング マリンスポーツ体験 スノーケリング ライフセービング カヌー 水の安全学習
5日目	**■船内活動** 海洋観察（そうふ岩）、船長さんのお話 ワークショップ、フェアウェルパーティ
6日目	海洋観察、解団式

B&G 体験クルーズ
B&G 海洋体験セミナー

1. 自然との共生や環境保
2. 礼節を学び、コミュニ
3. 他人の個性を尊重し、
4. 異なる年齢間での交流
5. 助け合い・人を思いや

このような“ねらい”を効果的に行うために、全国各地から集まった、年齢の異なる子どもたち（小学4年生～中学生）を対象に、集団生活と海や自然での体験活動を主体とする「B&G 体験クルーズ」「B&G 海洋体験セミナー」を実施しています。

海での体験が くましく育てます

5つのねらい

護の大切さを学びます

ケーション能力を育てます

お互いを敬う心を育てます

を深めます

る心を育てます

海洋体験セミナー in 沖縄（4泊5日）

1日目	空港出発、オリエンテーション 沖縄ものづくり体験
2日目	■ブルーシープログラム カヌー・ヨット・バナナボート、 水中観察、イルカプログラム
3日目	美ら海水族館、海水浴、水の安全学習 スノーケリング体験（磯の生物）
4日目	■グリーンランドプログラム マングローブ観察（東村の慶佐次川） パイナップル畑散策 エイサー鑑賞
5日目	首里城散策、帰路

親子ふれあい体験セミナー in 沖縄（3泊4日）

1日目	那覇空港集合、オリエンテーション、 美ら海水族館、バーベキュー
2日目	沖縄ものづくり体験 ■ブルーシープログラム カヌー・ヨット・バナナボート、 イルカプログラム
3日目	■離島プログラム 沖縄料理体験・スノーケリング 海水浴・トレッキング・水の安全学習 親子ふれあいの時間
4日目	那覇空港解散

海洋自然体験で私たちが目指すもの

ブルーシー・アンド・グリーンランド財団　会長　**梶田 功**

今、子どもたちへの自然体験が大変注目されております。学校教育におきましても、2006 年に教育基本法が 59 年ぶりに全面改正され、徳育が重要視されるとともに自然体験や集団宿泊体験などが国を挙げて推進されるようになりました。

遊びの要素を含む“マリンスポーツ”や“海・水辺での自然体験”は、子どもたちの集中力を養うとともに、海や大自然の素晴らしさ、雄大さ、自然の厳しさ、尊さなど、素直な驚きと感動する心を育みます。

また、集団での共同生活体験では、自主性や自立心、協調性とともに、困った時どうしたら良いか、人にど

のように相談したら良いか、人と接する際の礼節やマナーなど“人とのコミュニケーションの仕方”を学びます。特に、年齢の異なる集団での共同生活ではその効果がさらに高まります。

こうした自然の感動体験や仲間との様々な生活体験が大人になるための土台となり、この目に見えない土台を感受性の豊かな子どもの頃にしっかりと築いておく必要があります。

私ども B&G 財団では、“マリンスポーツを含む自然体験”と“年齢の異なる子どもたちによる集団生活体験”を提供する代表的な事業として、「B&G 体験クルーズ」（寄港地：小笠原）や「B&G 海洋体験セミナー（親子を含む）」（活動地：沖縄）を実施しています。

特に、「B&G 体験クルーズ」は、青少年育成の根幹事業として財団設立当初の 1976 年度から実施しており、これまでの参加者総数は親子 2 世代にわたる 6 万人を数えます。

「B&G 体験クルーズ」や「B&G 海洋体験セミナー」に参加した子どもたちは、いずれも短期間であるにも係らず、精神的にも一回り大きく逞しく成長する姿が見られます。

参加者・保護者を対象に実施した調査の結果からも、本事業の様々な海洋自然体験や共同生活体験が、子どもの自主性・自立心や社会性、学習意欲の向上などに幅広い影響を与えていることが明らかになっています。

また、当財団では、日本財団をはじめ海洋活動に関わる 7 団体を発起人として、全国の自治体や企業、ボランティアなども参加する協同組織「ウォーターセーフティ ニッポン」を 2010 年 3 月に設立。海や水辺の自然体験の普及と合わせて、“子どもの水の事故ゼロ”を目指した全国運動を推進しているところです。

一人でも多くの子どもたちが、安全に海や水辺の活動を体験し、道徳心や正義感、そして豊かな人間性を身に付け、心身ともに逞しく成長することを願っております。

本冊子が、子どもたちに対する“海や水辺の自然体験の重要性”について、皆様の理解をより一層深めていただく一助となれば幸いでございます。

海洋文化の創造

日本ライフセービング協会理事長　流通経済大学スポーツ健康科学部教授　**小峯 力**

「海は危ない、海に行ってはいけないよ」

これは、海岸近くに住む母親が、学校から帰ってきた子どもによく言う言葉。この言葉こそ、海で囲まれた島国には相応しくない日本の現状があります。オーストラリアやニュージーランド等の海洋文化との決定的な違いがここにあると思われます。

本来、海岸近くに住むということは、むしろ日々の生活に海を介在させるライフスタイルをもち、子どもたちにとっては最高の人格形成の場であり、この上ない遊び場でもあります。こうした現状を受けて、自然体験活動を積極的に展開しているのがＢ＆Ｇ財団です。

財団が実施し続けている体験クルーズや海洋体験セミナーといった事業は、知識や技能を指導者が一方的に教えるという従来の教育法とは異なり、子どもたちが具体的な自然体験を通じて、自ら意欲的に学んでいくことを重視した学び手中心の教育法が特徴といえます。それは身体的活動を基盤とし、自然環境等の理解や特徴を自ら学習するプログラムとなっており、多種多様な内容が包含されています。こうした自然体験活動の展開のベースとなるのは安全であり、そのひとつとしてライフセービング教育がお手伝いをさせて頂くご縁となっています。

自然の中で実施される水辺活動は、ある種の危険が常に存在することは明らかです。ゆえに単に生命を水辺から遠ざける安全ではなく、むしろ海（水）と積極的に親しむことの中からその危険性を知り、危険から身を助ける危機回避能力を養う。つまり「安全の自律」が必要になります。「楽しさ」や「冒険性」、あるいは「意外性」という非日常を体験し、それによって危険（リスク）を正しく理解し、それによる自律的な安全にこそ意味があるのです。

自然体験を通じて、子どもたちの内面から出現する自然に対する畏敬の念や環境に対する興味・関心を育む教育こそ、現代社会にとって欠かすことの出来ない実践（実学）教育です。今こそ、全教育活動を支えるものとして自然体験の実践活動が期待され、それは人間が生きていくうえで欠かすことのできない、心構えと自然への尊厳となるのです。

Ｂ＆Ｇ財団が展開するあらゆるプログラムには、しかるべき大儀が存在し、その理論と実践は、更なる現世が希求する人間が人間たらしめる海洋文化を創造するものなのです。

自立心や知的好奇心が育ちます

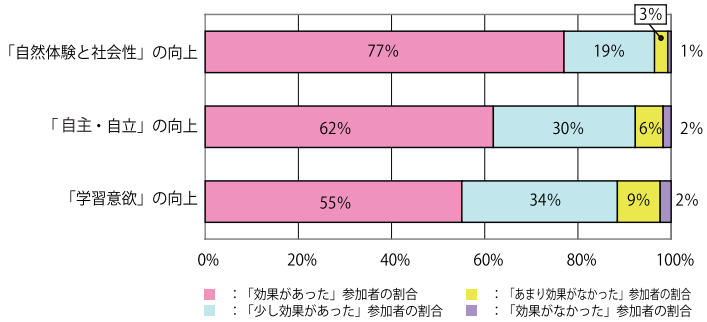
体験クルーズ／海洋体験セミナーアンケート集計より

ブルーシー・アンド・グリーンランド財団　専務理事　**広渡 英治**

私どもが行っております「B&G 体験クルーズ」「B&G 海洋体験セミナー」の効果を見るため、合わせて 37 項目の参加者アンケート調査を行いました。この調査結果と、『自然体験と社会性』、『自主・自立』、『学習意欲』にグループ分けした結果を中心に、海洋体験活動が子どもたちに与える効果について、ご紹介します。

「体験クルーズ」「海洋体験セミナー」の効果は、**『自然体験と社会性』77%、『自主・自立』62%、『学習意欲』55%**

―全体集計―



『自然体験と社会性の向上』にグループ分けした項目を合算すると、「効果があった」参加者は77%。そこでは“自然体験活動に喜び感動”し、社会性の基礎となる“挨拶や異学年との交流”ができた、さらに“皆で協力することの大切さを感じた”という実感が強く表れています。また、『自主・自立の向上』を感じた参加者は62%で、団体生活を通じて“きまりを守り、規則正しい生活や身の回りのことを自分でできた”という回答が多くなっています。そして『学習意欲』では、参加者の55%が「効果があった」と感じています。“「体験クルーズ」や「海洋体験セミナー」で知ったことをもっと知りたくなった、さらに詳しく調べてみようと思った”などと回答し、学習意欲の向上につながったことを自己評価しています。

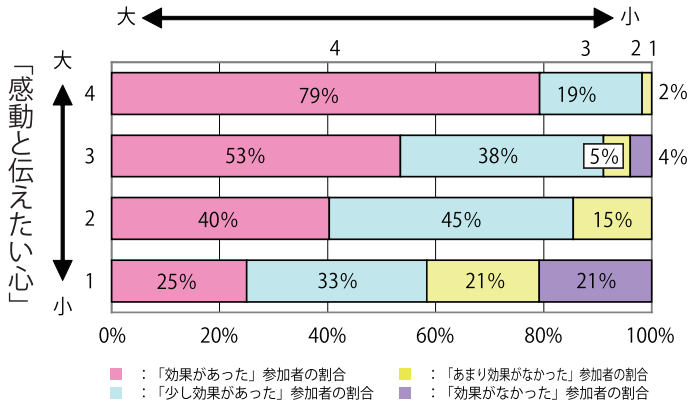
両事業の特徴の一つに「異学年交流」がありますが、“学校や学年の違う子と一緒に体験できて良かった”と感じている参加者は「体験クルーズ」で83%、「海洋体験セミナー」では91%もおり、地域の違う異年齢交流への潜在的な欲求の高さが伺われました。

また「海洋体験セミナー」で“自分の気持ちを相手に伝えられるようになった”参加者は49%と低い結果となりました。人とのコミュニケーションが苦手な現代の子どもたちの特徴がよく表れており、「体験クルーズ」や「海洋体験セミナー」が“人との接し方”を学ぶ機会として重要な意義をもっていることを改めて認識させられました。

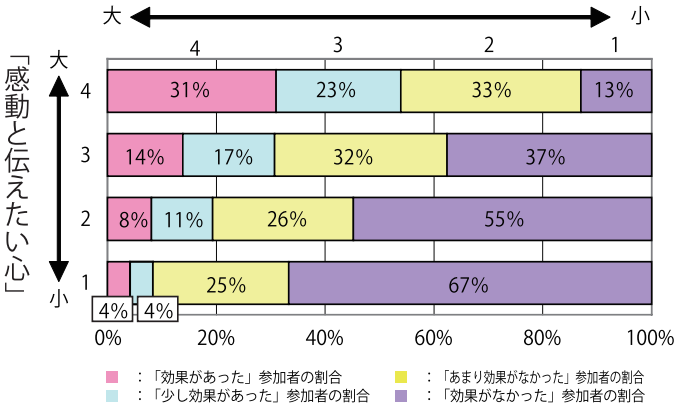
自然活動などの感動体験が**「自主・自立」**や**「学習意欲」**を高め、**「子どもの価値観（自己変化の認識）」**にも良い影響を与えます

―体験クルーズ調査より―

「自主・自立」



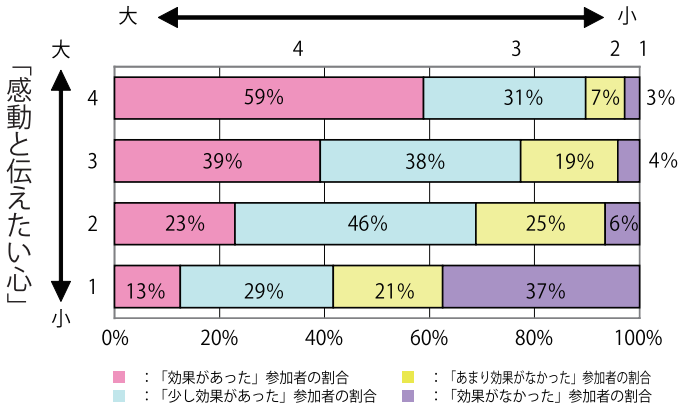
「学校での再現欲求と専門性」（学習意欲）



「体験クルーズ」の自然体験活動などを通じて、体験への「感動と伝えたい心」（子どもが感動し、その感動を人に伝えたいと思う気持ち）が大きければ大きいほど、「自主・自立」や「学習意欲」、さらには自分が変わったことを自覚する「自己変化の認識」も高

※掲載のグラフは、学研教育総合研究所の調査報告をもとに再構成したものです
※個々のアンケート結果を点数化し、調査項目単位に集計。得点を４段階に区分し、クロス集計を行った

「自己変化の認識」



まる傾向にあります。つまり、周りのものが今までと違って見えるなど、価値観が変わったとする子どもが多くなる傾向が見られました。

「学習」"知的好奇心"が最も広範囲に良い影響をおよぼします

―海洋体験セミナー調査より―

「海洋体験セミナー」のアンケート結果から、海や自然、沖縄のことを知り、"知的好奇心"が増したと感じた子どもほど、「社会性」（明朗化、友人関係改善、家族・挨拶）、「自主・自立」（生活習慣の改善、団体生活・自立、積極性）、「学習」（学校での再現欲求）、「自然体験」などで、ともに良い影響を及ぼしています。

自然をはじめとする様々な体験活動が子どもの"好奇心"を刺激し、子どもに笑顔と明るさを与えます。それが人への挨拶や同・異学年とのコミュニケーションを促進させ、さらには家族の大切さも再認識するなど「社会性」に良い影響を及ぼしました。また、この知的好奇心の増加が、学習意欲とともに自分から進んで行動する積極性を促進し、それが生活習慣や団体行動などの「自主・自立」の心にも好影響を及ぼしたことが推測されます。

このように、私どもが実施している「B&G体験クルーズ」や「B&G海洋体験セミナー」の調査を通じて、自然体験や異年齢による集団生活体験が、子どもたちに様々な面で良い効果を及ぼしていることが明らかとなりました。

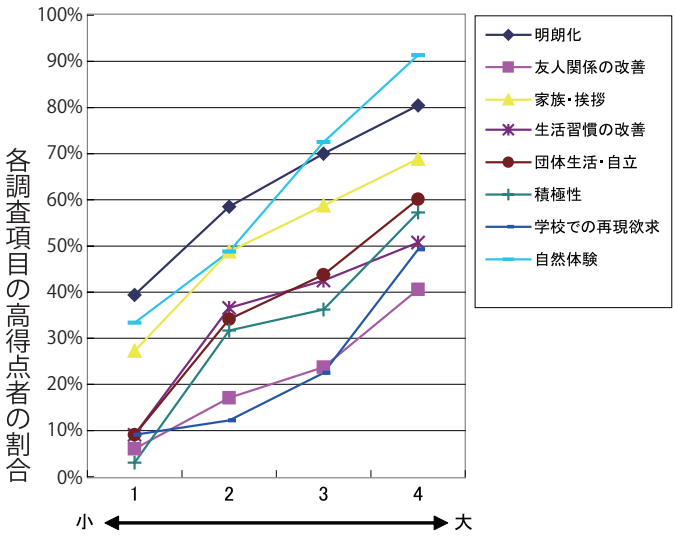
青少年白書（内閣府）にも、「自然体験の多い小・中学生は、道徳観、正義感の身に付いている者が多い傾向にある」とあります。また、「自然体験活動をする機会の多い青少年は、自律性、積極性、協調性が身に付いている者が多い傾向にある」ことが指摘されており、自然体験の持つ教育的な意義は、ますます高くなってきています。

一方で、子どもたちの自然体験が減少する要因の一つとして、保護者の皆さん自身の自然体験不足も指摘されています。つまり、幼少の頃から家族で自然に親しむ機会が少ないことが、子どもたちの自然体験不足の一因になっているということです。

当財団では、こうした社会情勢に対応するため、親子が自然体験を通じて絆を深める「B&G親子ふれあい体験セミナー」を2004年度から実施しております。この冊子にあるアンケート結果（※18ページ参照）からも、普段見ることのない親子のお互いの姿に素直に感心している様子が伺われます。自然には癒しの効果があるといわれますが、大自然の前では大人も子どももありのままの自分が出せるのでしょう。それが親子の新たな発見につながっているのだと思います。

この冊子を通じて、ひとりでも多くの皆様が"海や水辺の自然体験"の効果と必要性についてご理解いただき、自然体験の機会が今後ますます増えますことを願っております。

"知的好奇心"の大きさに比例して良い影響のあった項目の変化



「学習」（知的好奇心）の大きさ（得点区分）

日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

体験クルーズ 小笠原

概要

B&G財団設立3年後の1976年度から沖縄への定期船を利用した「児童の船」（小・中学生）を実施し、1978年度からは大型客船による本格的なクルーズ体験事業を開始しました。

2002年度から、現在の東京都小笠原（父島）を寄港地として実施しており、**30年を超えるこれまでの体験クルーズ参加者総数は6万人**に及んでいます。

期間：春休み（３月下旬、５泊６日）
行程：東京晴海～小笠原諸島父島
後援：内閣府、文部科学省、国土交通省、東京都、日本財団など
対象：全国の小学４年生～中学３年生　500人

参加者アンケート概要

■児童・生徒

調査期間
2009年３月26日～３月31日
アンケートの回収方法
体験クルーズ参加者にアンケート用紙を船上配布し、回収
調査対象者
体験クルーズに参加し、アンケートを回収した児童・生徒473人
・有効回答者数　440人（有効回答率　93%）

■保護者

調査期間
2009年３月31日～４月17日
アンケートの回収方法
体験クルーズ参加者がアンケート用紙を持ち帰り、後日郵送にて回収
調査対象者
体験クルーズ参加児童・生徒473人の保護者のうち回答のあった164人
・回収率…35%・有効回答者数…162人（有効回答率…99%）

子どもの感想（アンケート自由記述・感想文より抜粋）

団体生活と海洋体験を通して貴重な経験ができました

参加してよかったこと

学年が違う子と友だちになれてよかった。学校では、海の勉強はあまりしないので、専門家の人に、いまの地球の問題や、私たちにもできることなどを教わることができたのもよかった。
（小学５年生女子）

今後の自分に役立つ体験ができました

ライフセービングという、おぼれた人を助ける仕事を体験して、たいへん（な仕事）だなと感じました。これからは、自分の命を自分で守れるようになろうと実感しました。（中学２年生男子）

いままでの自分と変わったなと感じました

いままでは、生活の中でしなければいけないことを、ほとんど親にまかせていました。「時間を見て行動すること」など、すこしだけれど自分でできるようになりました。（小学６年生女子）

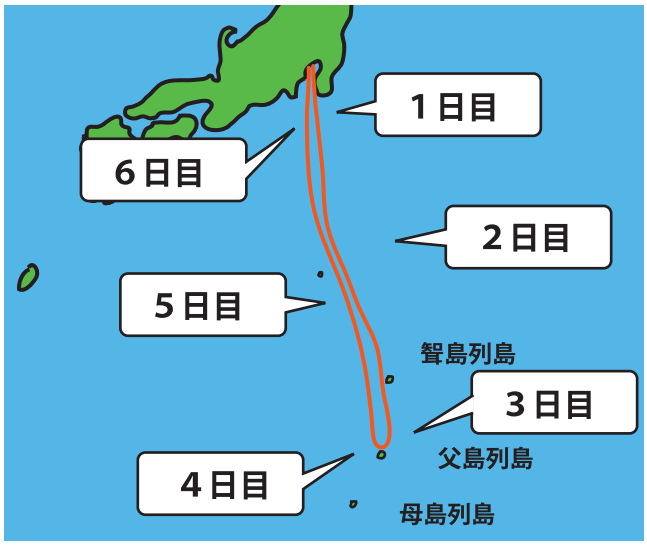
海の汚れに気がつきました

（帰途に）船が東京湾に入ると、海の水がとても汚れていました。小笠原の海は、水面に顔をつけると先が遠くまで見えるくらい透明できれいだったので、あまりの違いに驚きました。東京湾の水は、生活排水や工場などの排水によって汚されているのだそうです。ぼくも、川や海の水を汚さないように気をつけて生活したいと思いました。(活動終了後の感想作文より)

海や自然の大切さ・人類と海の係わりを学び、船上での団体生活を通して、思いやりと友情を育み、豊かな人間性を養います

体験クルーズの日程

日程	主な活動
1日目	◆結団式 ◆出航・海洋観察 ◆避難訓練 ◆ウェルカムパーティ
2日目	◆レクリエーション ◆デッキランチ ◆海の大切さについて ◆海洋観察 ◆小笠原の自然学習
3～4日目	◆小笠原上陸・寄港地活動 マリンスポーツ、自然体験 水の安全学習
5日目	◆海洋観察 ◆船長さんのお話 ◆ワークショップ ◆フェアウエルパーティ
6日目	◆海洋観察・帰港・解団式



保護者の声（アンケート自由記述より抜粋）

班　長の行動に感銘したようです

班長さんの行動に感動した様子。自分も（船酔いで）気分が悪いのに、他の子の介抱をしている姿にびっくりしたようです。自分もその班長のようになりたいと感じたと話してくれました。（小学４年生男子の保護者）

子　どもが変わったなと思います

友だちになった人に手紙を書いていました。友だちの輪が広がったようです。（中学３年生女子の保護者）

知　識の幅が広がりました

小笠原が紹介される番組などがあると、すぐに反応していろいろと教えてくれます。（中学1年生男子の保護者）

自　立心が芽生えたようです

小さなことは（親に）聞かなくなりました。できるだけ自分で判断しようとしているようです。（小学６年生男子の保護者）

応援メッセージ

海に反射する太陽の光より輝いていた子どもたちの瞳

シドニーオリンピック背泳ぎ・銀メダリスト　**中村 真衣**

2008年３月26日。晴天の下、豪華客船「ふじ丸」は小笠原に向いました。初めての共同生活と大航海。恥ずかしがって目も合わせてくれなかった子どもたちが、僅か６日間の集団生活の中から協調性を身につけ、また人との交わりから社会性を養った、その変化には驚きを隠せません。

勉強や習い事も大切ですが、これからもいろんなことにチャレンジする精神を忘れないでいて欲しいと思います。この小笠原体験クルーズは子どもたちに多くのことを学ばせてくれます。もし私の子どもがその年頃になったら、絶対に参加させたい体験クルーズです。

自立心、協調性、礼節を育み、自然の大切さを知る素晴らしい成長の場

元ボートレーサー、日本モーターボート競走会　執行役員　**植木 通彦**

平成１９年度の記念すべき３０回目の「体験クルーズ」に乗船させていただき、子どもたちが自立心、協調性、礼節を育み、自然の大切さを知って、大きく成長する姿を見ることができました。

私は、ボートレーサーとして２０年間現役生活を続けましたが、ボートレースの収益金がこのような素晴らしい事業に役立てられていることを改めて認識できる良い機会ともなりました。

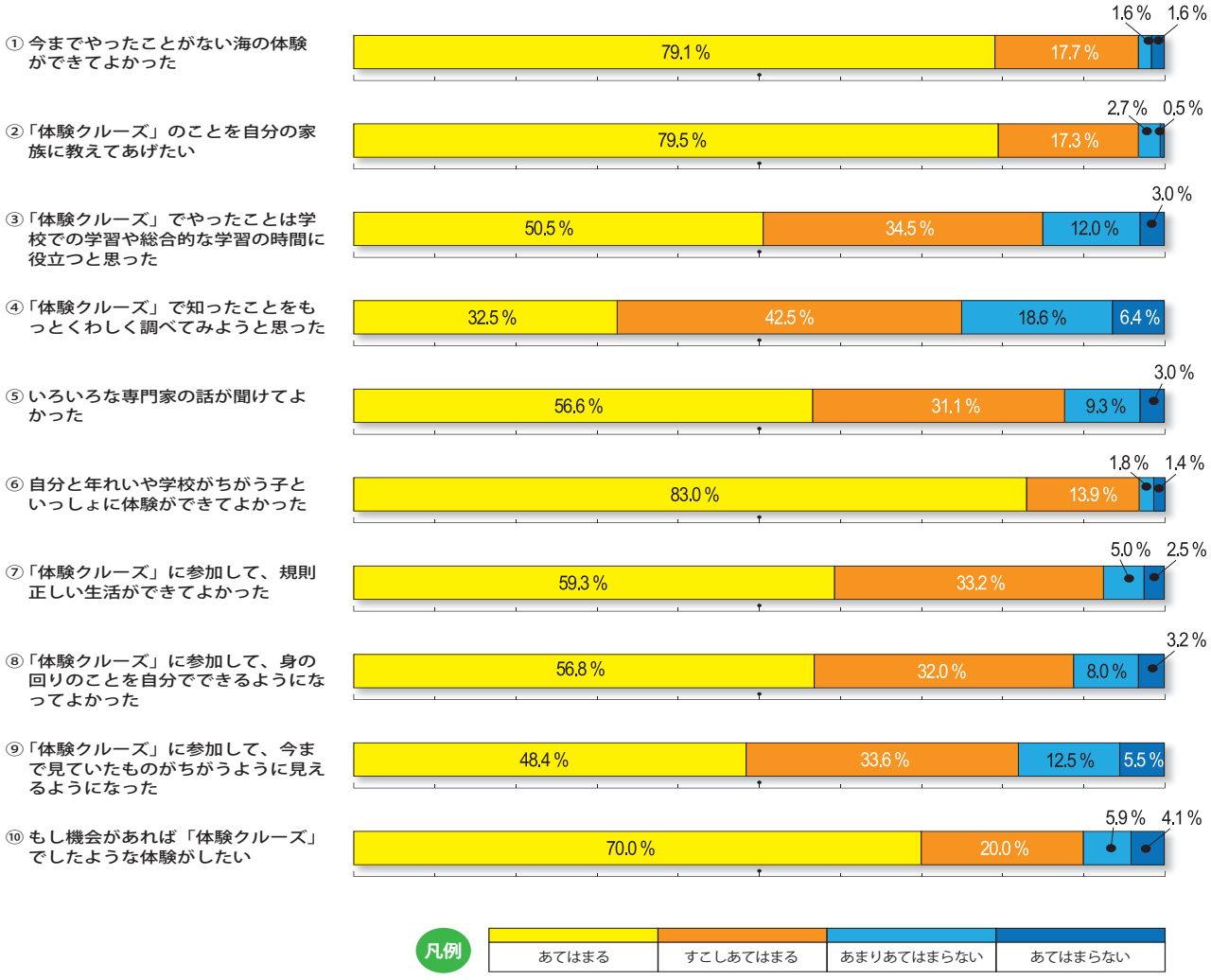
今後も本事業を通じ、子どもたちに素晴らしい体験を提供し続けていただくことを期待しております。

体験クルーズ 小笠原

● 子どもアンケート集計結果

「規則正しい生活ができるようになった！」

設問 「体験クルーズ」はどうでしたか。やったことをふりかえって書いてください



※ 数値は全体比（%）を小数点以下第２位で四捨五入したもの

アンケート結果からわかること

「⑥自分と年齢や学校が違う子といっしょに体験ができてよかった」「②体験クルーズのことを自分の家族に教えてあげたい」「①今までやったことがない海の体験ができてよかった」などに非常に良い結果がでています。このことから、「体験クルーズ」の大きな特徴である“異年齢交流”への強い関心とともに、日常では決して体験できない“海や自然への強い感動”が伺われます。

さらに、「⑦規則正しい生活ができてよかった」「⑧身の回りのことを自分でできるようになってよかった」が上位にきており、運命共同体といわれる船での６日間の共同生活体験の効果が表れていることがわかります。

考察 小笠原の自然体験や規則正しい生活は、学校での学習意欲などにつながる

神奈川県綾瀬市立北の台小学校 教諭
学研教育総合研究所 客員研究員 **河崎 睦**

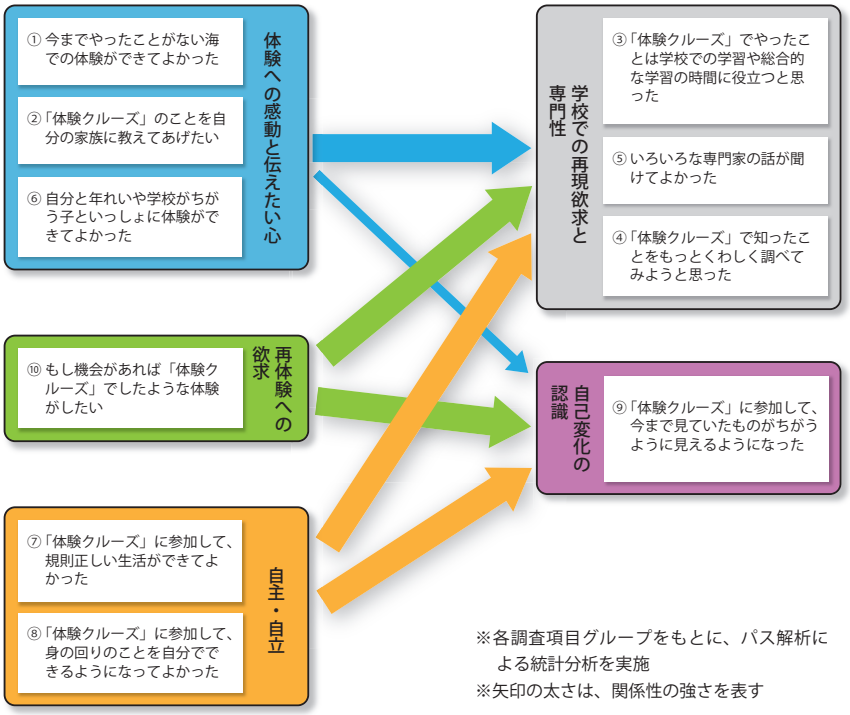
調査項目を下図のようなグループにまとめ、それぞれのグループ間の関係性を統計的に分析しました。

この図からは、「自主・自立」のグループと、「学校での再現欲求と専門性」「自己変化の認識」のグループとが強く結びついていることがわかります。つまり、「⑦「体験クルーズ」に参加して、規則正しい生活ができてよかった」「⑧「体験クルーズ」に参加して、身の回りのことを自分でできるようになってよかった」と考えている児童・生徒ほど「③体験クルーズ」でやったことは学校での学習や総合的な学習の時間に役立つと思った」「④「体験クルーズ」で知ったことをもっと詳しく調べてみようと思った」などと考えています。

さらに、「⑨「体験クルーズ」に参加したので、今まで見ていたものがちがうように見えるようになった」と感じていることがわかります。つまり、体験クルーズでの規則正しい生活が児童・生徒たちに好影響を与えていることも分析の結果として表れています。

また、「⑩もし機会があれば「体験クルーズ」でしたような体験がしたい」と考えている児童・生徒ほど「学校での再現欲求と専門性」での数字がよい傾向にあります。この結果からも、学習意欲の高まりに体験クルーズが貢献していることが推測されます。

設問グループ間の関係性



※各調査項目グループをもとに、パス解析による統計分析を実施
※矢印の太さは、関係性の強さを表す

日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

海洋体験セミナー 沖縄
親子ふれあい体験セミナー 沖縄

概要

●海洋体験セミナー

1998年度から沖縄の豊かな自然を活かして、様々なマリンスポーツやマングローブ林の観察など、海を中心とした多岐にわたる体験活動を行っています。これまでの参加者総数は6千人に及びます。

	期間：4泊5日	発着空港
A.	2009年7月22日(水)～7月26日(日)	中部国際・福岡
B.	2009年7月26日(日)～7月30日(木)	羽田①・伊丹
C.	2009年8月 2日(日)～8月 6日(木)	新千歳・仙台
D.	2009年8月17日(月)～8月21日(金)	羽田②・岡山

●親子ふれあい体験セミナー

親子関係の希薄化が社会問題となり、また、親の世代の自然体験不足が子どもの自然体験の機会を減少させる一因になっています。日常生活では体験できない多彩な自然体験プログラムを通じて親子が感動を共有し、絆を深めます。

	期間：3泊4日	発着空港
A.	2009年7月30日(木)～8月2日(日)	羽田・那覇

後援：文部科学省、国土交通省、日本財団など
対象：**海洋体験セミナー**：小学5年生～中学3年生約300人
親子ふれあい体験セミナー：小学3～6年生と保護者約30人

参加者アンケート概要

■海洋体験セミナー：児童・生徒
調査期間　各行程月日
回収方法　児童・生徒へ体験セミナー中に直接配布し、各行程の最終日前日に回収
有効回答者数　280人（有効回答率　96%）

■海洋体験セミナー：保護者
調査期間　9月15日締切
回収方法　児童・生徒に調査紙を渡し、後日郵送回収
有効回答者数　171人（有効回答率　88%）

■親子ふれあい体験セミナー
調査期間　2009年7月30日～8月2日
回収方法　児童および保護者それぞれに記述式のアンケートを実施
有効回答者数　28人（保護者13人、児童15人／有効回答率100%）

子どもの感想（アンケート自由記述より抜粋）

海洋体験を楽しみ、沖縄の自然と文化にふれました！

キ　レイな海を大切にしたいと思った

すごくキレイな沖縄の海は、ジンベイザメや色々な大きさ、色々な種類の生き物がいて、海をキレイに、大切にしようと思った。（小学6年生女子）

生　き物がささえあって生きてることを実感

沖縄の海はきれいだなぁと思った。沖縄の海はよく見ない生き物がたくさんいたと思う。みんないっしょうけん命生きるのにがんばっていて、たくさんの生き物がささえあっていきているんだなと思った。（小学6年生男子）

新　しいことにチャレンジできた

バナナボートがこわくて乗れないと思っていたけれど、がんばって乗ったらすっごくたのしくて、やってよかったと思った。生き物をさわれた。やったことのないことをやることがすごいと思った。（小学5年生女子）

自　分から話しかけることができるようになった

いつも向こうから話しかけることを待っていたけど、積極的に話ができ友達がたくさんできてよかったと思いました。また自分でやれることがたくさんふえてきました。このようなことを続けていきたいです。（小学6年生男子）

み　んなと楽しく生活できた

同じ班の人と協力し、自分で少し「ガマン」しながら楽しく生活することや、沖縄の言葉を覚えたり、たくさんのマリンスポーツなどが出来るようになり、部屋を楽しく過ごすことができた。（中学1年生女子）

班　長としてまとめ役に

班長として他の班員をまとめることができた。普段の生活では、あまり経験できない事が体験できて良かった。（中学3年生男子）

広く海洋への理解を深め、豊かな人間性を養います
（海洋体験セミナー）

親子の絆、海洋や自然に関する理解を深めます
（親子ふれあい体験セミナー）

海洋体験セミナーの日程

日程	主な活動
1日目	◆オリエンテーション ◆沖縄ものづくり体験
2日目	**ブルーシープログラム** カヌー・ヨット・バナナボート 水中観察・イルカプログラム ◆講座
3日目	◆美ら海水族館見学 ◆スノーケリング（磯の生物） ◆海水浴、水の安全学習 ◆講座
4日目	**グリーンランドプログラム**（自然体験） マングローブ観察（カヌー探検） ◆パイナップル畑散策 ◆エイサー（沖縄伝統芸能）鑑賞
5日目	◆首里城公園見学

保護者の感想（アンケート自由記述より抜粋）

初めての体験が生きる上での財産に

沖縄で出会った全てのこと…知らない人達と共に生活したこと、自然の中で遊び、学習し、よその土地の文化を肌で感じたこと、全てが初体験で、子どもにとって生きる上でどれほどの財産になったことだろうと思います。（小学５年生男子の保護者）

年下の子どもの世話もできた

班長として年下の子のお世話もちゃんとできた様で、親としても嬉しかったです。帰った翌日は他県のお友達から電話をいただき、嬉しそうにしておりました。沖縄で一緒に生活し共有する体験は強い絆を作ったようです。（中学２年生男子の保護者）

先輩から節約術も学んだ

自分で考えてする、という面でお小遣いの使い道を考えて、節約までしたようです。同室の中学生に教えてもらい、お金の管理をノートに記入していたとの事。素晴らしい先輩に出会えて感謝しています。（小学６年生女子の保護者）

応援メッセージ

自然と人に対して「本当の意味の優しさ」を教えてくれる貴重な体験の場

女優　岸 ユキ

短い期間ではあっても、一つの目的を持ち、仲間とともにさまざまな経験をし行動することの大切さを思います。わがままは許されないなか、誰かが困っている時は皆で助け合う。さまざまなコミュニケーションは自己研鑽にもつながり、生涯貴重な経験として残ることでしょう。

B&G 財団の良いところはスタッフ自身厳しい訓練を経験し、自然に対し、人に対し、本当の意味の優しさをもった指導者がかかわっていることです。沢山の人に参加していただきたいと思っています。

人としての生活の本質を教えてくれる、一生の宝

ＴＢＳテレビアナウンサー　秋沢 淳子

私自身も２年前にＢ＆Ｇ財団の海洋体験セミナーに同行し、沖縄のどこまでも蒼い空と海を、体中で感じました。

人が生きていく時に、最も大切なことは何でしょうか？　自分たちが生きていく舞台である、美しい地球を汚さないで守ること。そして、その美しい舞台で仲間と美しい心と力を合わせて生活をすること――B&G 海洋体験セミナーは、そんな人としての生活の本質を教えてくれる、素敵なセミナーだと思います。

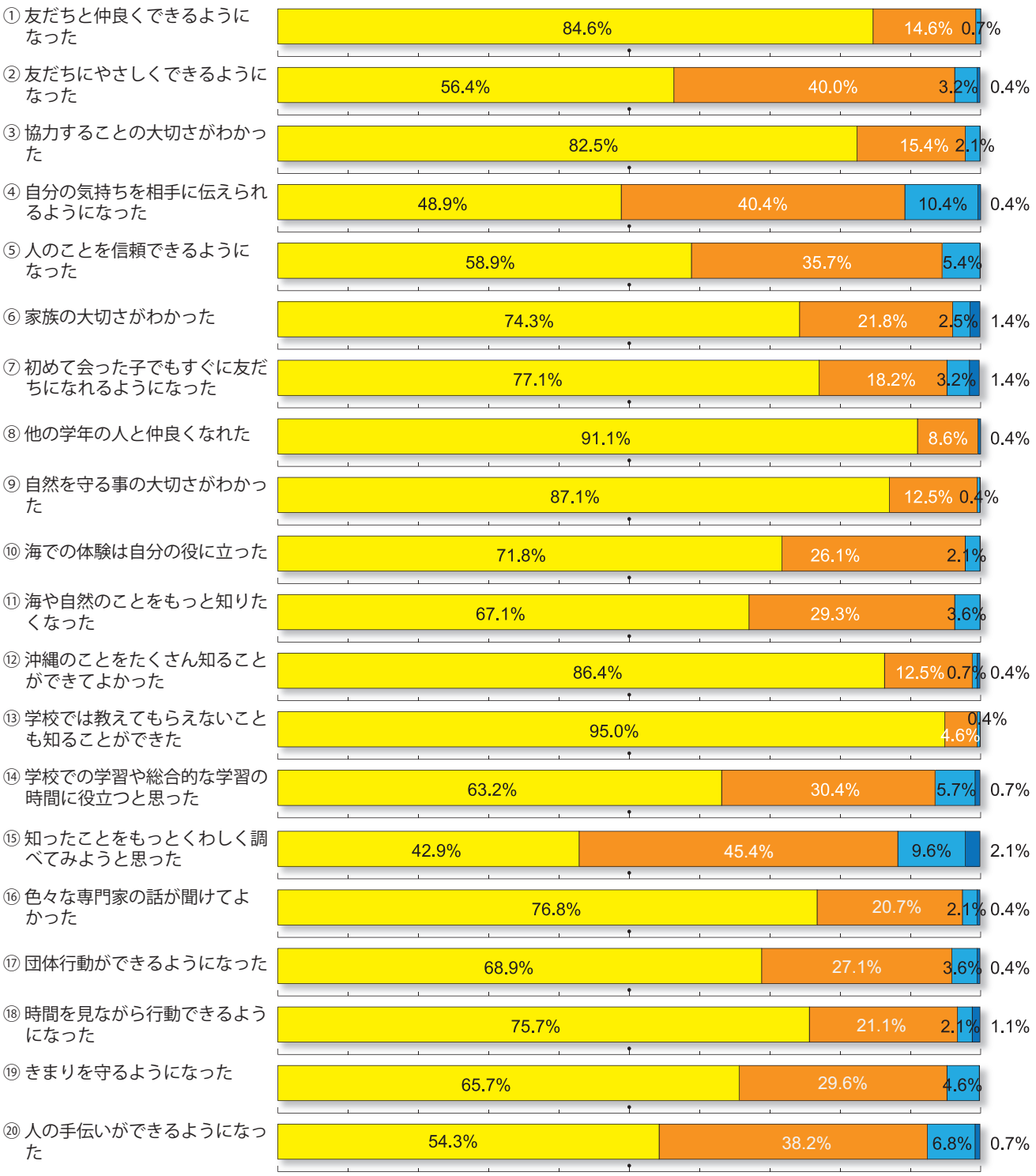
参加したお子さんにとって、このセミナーでの体験は一生の宝となることでしょう！

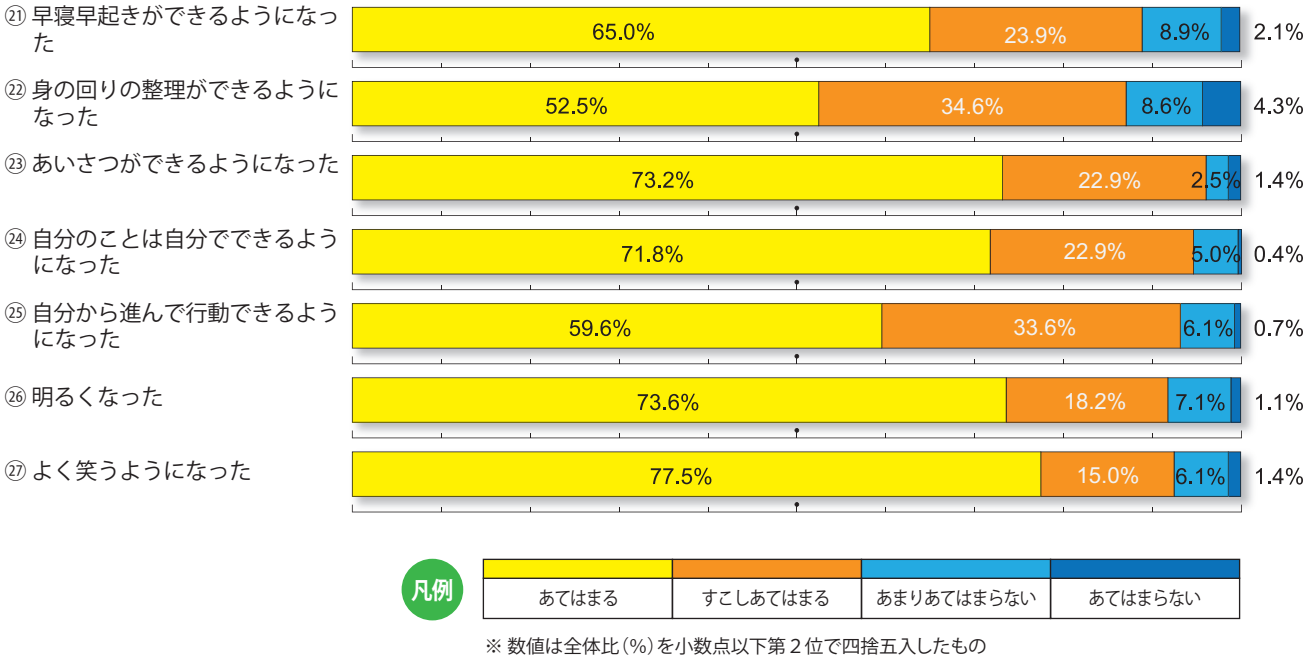
海洋体験セミナー 沖縄

● 子どもアンケート集計結果

「友だちと仲良くできるようになった」

設問 このセミナーをとおして、どのように感じましたか





※ 数値は全体比（%）を小数点以下第２位で四捨五入したもの

アンケートの結果からわかること

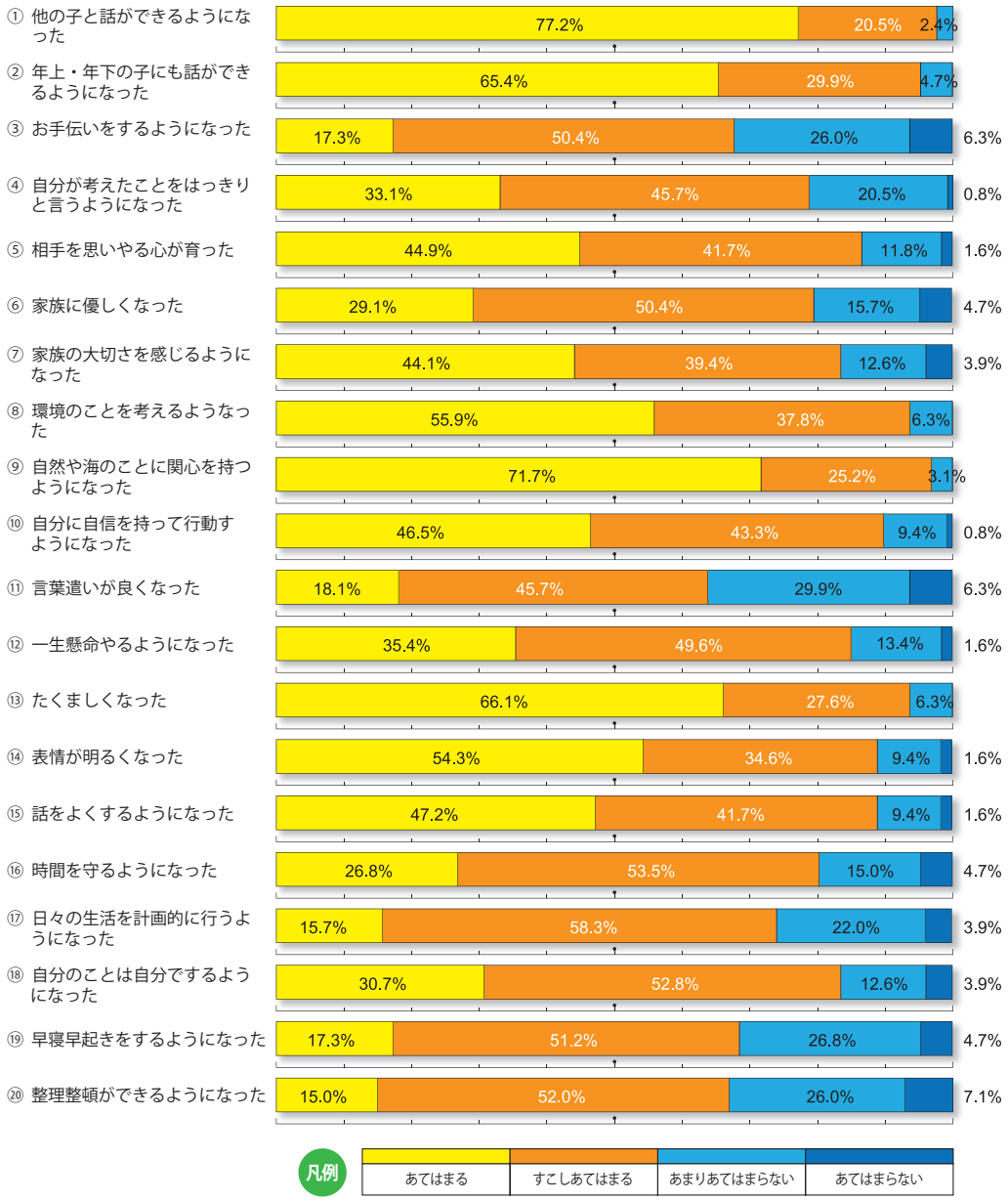
「⑬ 学校では教えてもらえないことも知ることができた」「⑨ 自然を守る事の大切さがわかった」などで良い結果が出ています。このことは、「体験セミナー」の目的のひとつである、自然体験における「学習面での成果」と読み取ることができます。さらに、「⑧ 他の学年の人と仲良くなれた」「①友だちと仲良くできるようになった」などの項目で良い結果が出ており、「新しい友だちができたことのうれしさ」を読み取ることができます。また、「③ 協力することの大切さがわかった」の項目に良い結果が出ており、集団生活を味わうことで、社会性の基本となる協調性などへの効果が表れていることがわかります。

海洋体験セミナー 沖縄

保護者アンケート集計結果

「自然に興味を持ち、他の子とも話ができるようになりました」

設問 この「海洋体験セミナー」は、以下の点で「子どもたちに効果的であった」と思いますか



※ 数値は全体比（%）を小数点以下第２位で四捨五入したもの

アンケート結果からわかること

「①他の子と話ができるようになった」が最も多く、「⑨自然や海のことに関心を持つようになった」「⑬たくましくなった」「②年上・年下の子にも話ができるようになった」「⑧環境のことを考えるようになった」などが上位にきています。このことから、保護者は、海を背景とした活動とともに、コミュニケーション力の向上に効果的であったと考えていることがわかります。

考察 海洋体験セミナーの大きな成果は社会性と学習意欲の向上にあらわれている

神奈川県綾瀬市立北の台小学校 教諭
学研教育総合研究所 客員研究員 **河崎 睦**

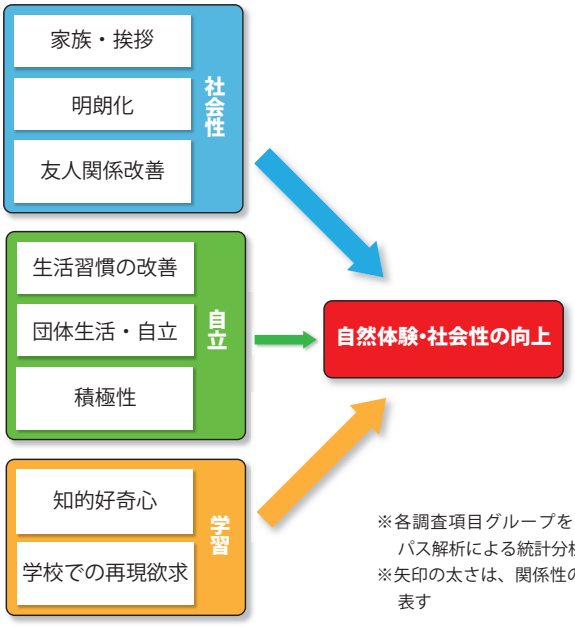
「何かを見る目が変わること」を学習効果とする考え方があります。つまり「○○をはじめて知った」ということばかりではなく、「○○に対する見方が変わった」「○○が違うものに見えるようになった」ということです。こうした考えを元にすると、「学習効果」と考えられるものがこの調査において検出することができました。

このB&G海洋体験セミナーの成果を検証するため、参加した児童・生徒を対象に行ったアンケート調査項目を分類し、海洋体験セミナーの成果を見る【自然体験・社会性の向上】ほか、【社会性】【自立】【学習】という4つの大きなまとまりをつくりました。

【社会性】のまとまりの中を細かくみると、「家族の大切さがわかった」「挨拶ができるようになった」という"家族・挨拶"、「明るくなった」「よく笑うようになった」という"明朗化"、「友だちにやさしくできるようになった」という"友人関係改善"という集まりに分類できます。これらの項目に対して「あてはまる」と答えている児童・生徒ほど「他の学年の人と仲良くなれた」「自然を守る事の大切さがわかった」などからなる【自然体験・社会性の向上】という体験セミナーの意義を大きく感じていることが、統計的に明らかになりました。

また、【学習】を細かくみると、「海や自然のことをもっと知りたくなった」などからなる"知的好奇心"、「知ったことをもっとくわしく調べてみようと思った」からなる"学校での再現欲求"という集まりに分類できます。これらの項目に対して「あてはまる」と答えている児童・生徒ほど【自然体験・社会性の向上】という体験セミナーの意義を大きく感じていることも、統計的に明らかになりました。つまり、社会性を身につけ、学習意欲の高まりを感じている児童・生徒ほど体験セミナーを有意義であったと感じていることが明らかとなったわけです。そしてこれらの項目に対して多くの児童・生徒が「あてはまる」と答えていることから、「沖縄での自然体験」と「社会性の向上」という、海洋体験セミナーの大きなひとつの目的が達成されていることが推測されます。

設問グループ間の関係性



※各調査項目グループをもとに、パス解析による統計分析を実施
※矢印の太さは、関係性の強さを表す

親子ふれあい体験セミナー 沖縄

子ども・保護者アンケート結果

「お互いのことを見直しました」

子どもの感想（アンケート回答より抜粋）

「親子ふれあい体験セミナー」にいっしょに参加して、「お父さんやお母さんはすごいな」と感じたり、気づいたりしたことがあれば書いてください。

第1日目、お父さんが一番多く名前を覚えていたことがすごいと思う（小学3年生）

ヨットとか運転するやり方をいろいろと知っていて、とってもすごいな～と思いました（小学3年生）

橋の上から飛び込む時、お父さんは迷いなく飛び込んだのがすごいと思いました（小学6年生）

お母さんは料理のしかたをよくしっていて、すごいと思った（小学5年生）

ヨットがうまくて、人の心をつかむのもうまいのがすごい（小学6年生）

お母さんは海の中でずっとカメラを持って、写真をとっていたので、すごいと思いました（小学5年生）

保護者の感想（アンケート回答より抜粋）

「親子ふれあい体験セミナー」に参加して、改めてお子様の成長を感じたり、気づいたりしたことがあればお書きください。

部屋を出る時など、「失礼します」と元気よく言えた時、成長を感じました。３日間の間でしたが、友だちと仲良くなっていく様子を見て驚いたと同時にほこらしく思いました（3年生の保護者）

頼りない感じがしていましたが、実は常にしっかりとした事を考えていて、行動に移すかどうかを迷っているだけだとわかりました（5年生の保護者）

「海へのジャンプ!!」は予想外だったようで、少しこわがっていました。でも、最後には勇気を出して飛んでくれました。何でもできる子ではありませんが、やればできるんだ……と思いました（4年生の保護者）

息子と２人でこんなに長い時間を過ごしたことがなく、いつも見て見ぬふりをしてきた態度や、食事の取り方など、ちゃんとしつけてこなかった自分を反省する機会となりました。ダイビングや水泳など、「無理無理」と言いながらもやりとげられたことで自信が持てたようです（5年生の保護者）

一人っ子なので、兄弟にもまれる経験がなく、人の面倒を見る事ができないのでは……と思う事がありましたが、班長になった責任感で、時間通りに集合する大変さを学んだよう思います。（6年生の保護者）

全体評価

短期間で最大の効果

自然体験＋集団生活＝子どもの成長期の宝

B&G 海洋教育事業調査委員会委員長
学研教育総合研究所所長　**安威 誠**

「教育の効果は時間がかかるものだ。10 年や 20 年後にわかるものだ。従って、目先の教育指導ですぐ結果がでるものではない」ベテランの教職者からお叱りを受けた経験のある方も多いのではないでしょうか。

私は、短期間でも、やり方によって必ず成果が出ているはずである、という考えを持っています。その指導のねらいに対して、的を絞った評価基軸を設定すれば、良い結果を導き出せるはずである、ただし良い指導者と適切なプログラムと良い環境が条件である、と。

今回、その仮説を証明する良い機会を得ることができました。それが、B&G 財団が実施している「体験クルーズ」と「海洋体験セミナー」事業の教育的効果を調べるためのアンケート調査でした。この調査は、同財団が実施する青少年育成の根幹ともいえる 2 事業について、子どもたちに与える具体的な効果を科学的に明らかにしようとするものです。

調査にあたっては、これまでのノウハウを基に、物事を定量的に計るのではなく、意欲や関心など定性的な変容を数値で示し、科学性を重視した調査による検証を試みました。その結果は、小笠原への体験クルーズ調査（詳細 10-11p）、沖縄での海洋体験セミナー調査（詳細 14-17p）の通りで、子どもの意識・態度・関心に目覚しい変化が表れていることが明らかになりました。

親元を離れて 1 週間足らずで、「自然の大切さを感じ取り」、「思いやりや友情を育み」、「自立心や好奇心がめばえ」、そして「学習意欲が高まる」。このような成果は、学校や家庭ではこの短期間にはなかなか実現できるものではありません。小笠原や沖縄へ出かけ、本物の自然の中で、それぞれの分野の専門家とベテランの指導者、そして綿密に練られた活動プログラムが揃っていたからこそ、これだけの教育的効果が表れたものと推測されます。

今回の調査により、個人差はあるものの、子どもたちが精神的に大きく成長したことが明らかになりました。ただこの子どもたちの大きな変化は永続的なものではなく、効果の内容によっては普段の生活の中で徐々に薄れていくものも少なくありません。親として重要なことは、この効果があるうち、つまり子どもの教育的な高まりのほとぼりが冷めないうちに、親自身がわが子への接し方を変えるということです。そうすれば、子どもが本来持っている“自立したい”という本能がより持続でき、さらなる子どもの成長につながるというものです。

海洋国家でありながら、船を活用した研修や海や水辺の自然体験が減少傾向にある中、B&G 財団では、1973 年の設立以来、青少年の健全育成を主眼に様々な事業を長年にわたり実施。特に海洋自然体験等を通じた子どもたちの心身の育成に力を注いでおられます。財団の海洋自然体験活動が今後も末永く続けられますことを、心よりお祈りいたします。

水の事故ゼロ運動

WaterSafetyNIPPON

未来を担う子どもたちのために！

水と遊び自然を学び、水の事故から子どもたちを守る。

「自然体験」と「水の安全教育」を推進し、日本の“水の事故ゼロ”を目指しています。

Water Safety NIPPON
水の事故ゼロ運動推進協議会

水の事故ゼロ運動は「ウォーターセーフティー ニッポン」が推進しています。

ウォーターセーフティー ニッポン（水の事故ゼロ運動推進協議会）　http://www.mizu0.jp/
〒105-8480 東京都港区虎ノ門1-15-16 海洋船舶ビル9F（B&G財団内）/ TEL 03-5521-6758（代）/ FAX 03-5521-6745

海と出会い、自分と出会う ～海洋体験活動が育むもの～

編集・発行：ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
〒105-8480 東京都港区虎ノ門1丁目15番16号 海洋船舶ビル9階
Tel. 03-5521-6740（代表）　Fax. 03-5521-6745
URL　http://www.bgf.or.jp/

制　　作：株式会社 学研マーケティング　編集事業開拓室 / イラスト 丸岡 巧
編集協力：学研教育総合研究

Copyright 2010 Blue Sea and Green Land Foundation. All rights reserved.